

令和6年度 京都府立南丹高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 本府における総合学科高校の中核的役割を踏まえ、総合学科の特色を生かした教育活動を推進する。</p> <p>○ 確かな学力と豊かな人間性を基盤とする知徳体の調和のとれた成長を促し、自立した社会人としてたくましく生きる力を育成する。</p> <p>○ 郷土(京都・ロ丹波)に対する親しみと理解を深め、地域に貢献できる人材を育てるとともに、地域から信頼される学校作りに努める。</p>	<p>○「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」（課題研究）における特色ある取組やまなびを通して時代の変化に応じて求められる資質や能力をより向上させる。</p> <p>○学習用端末を利用した授業の工夫を欠く教科で実施した。研修等の機会を通して指導力の一層の向上を図り、より効果的な活用により、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成に努める。</p> <p>○学びに対する多様なニーズに応じた支援の在り方の検討が必要である。</p> <p>○多様な進路希望の実現に向けて適切な指導を行う。 また、より高みを目指す意識の高揚と実現に向けた力の育成と合わせて、基礎学力の定着も必要である。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成、自他の人権を尊重する意識や態度を身に付ける指導を継続する。</p> <p>○部活動の活性化、加入率向上に向けた取組を継続する。</p>	<p>1 基礎学力の定着と発展的学力の育成、キャリア教育の充実による希望進路の実現</p> <p>2 個々のニーズに応じた適切な学びの支援と新学習指導要領に基づいた指導と評価による授業改善の実施</p> <p>3 ICTを活用した主体的に学ぶ姿勢の育成、指導力の向上に向けた取組の充実と授業の工夫</p> <p>4 総合知的探究系列・テクニカル工学系列の取組の充実と特色化</p> <p>5 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を中心とした総合学科の特徴を生かした教育活動の実践を通して、時代の変化に応じて求められる資質や能力の一層の向上及びそのために必要な教育課程の検討</p> <p>6 学校行事、部活動の活性化と部活動加入率の向上</p> <p>7 総合学科の魅力発信と地域の力を教育活動に生かした教育活動を通して、地域に貢献する意識の育成と地域を活性化する取組の推進</p> <p>8 基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成、いじめの未然防止への組織的対応等により、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる環境の整備</p> <p>9 高い人権尊重の意識を持ち、多様な価値観の尊重や多様な人々と協働する態度の育成</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	総合学科教育の充実と探究活動の推進	「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を中心とした学びを通して、時代の変化に対応できる資質・能力のさらなる向上を目指した取組を行う。	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を中心とした学びの中で、様々な資質・能力の向上が見られ、生徒の運営による総合学科研究発表会を実施できた。 総合知的探究系列では、学年を越えた交流の実施等、多様な取組を通して、特色化を図ることができた。 テクニカル工学系列では、関係機関との連携を積極的にに行い、パートナー企業を中心に、様々な活動へ協力いただけた。 主体的に学ぶ姿勢の育成を目指し、「指導と評価の一体化」について検証を行うとともに、学習用端末の有効活用等、さらなる授業改善への取組が必要である。 希望進路の実現に向け、基礎学力の向上・定着等をどのように推進していくかが今後の課題である。 部活動活性化に向け、加入率向上に向けた取組は発展・継続させたい。 生徒が安心して学べる環境の構築に向け、適宜ケース会議を行う等、きめ細やかな指導を継続する。
		総合知的探究系列の充実化・特色化を図るとともに、テクニカル工学系列における関係機関との連携をさらに深め、一層の充実化を推進する。	B	B		
		グラデュエーションポリシー・カリキュラムポリシーに基づいた教育活動の実践を通して、生徒の満足感を高め、魅力をより発信し、生徒募集につなげる。	B	B		
		地域の力を教育活動に生かすとともに、地域に貢献する取組を推進する。	B	B		
学習指導 進路指導	基礎学力の定着とキャリア教育の充実による希望進路の実現	個々のニーズに応じた適切な学びを実践する。	B	B	B	
		基礎学力の定着と発展的学力の育成を図り、キャリア教育の充実による希望進路の実現を目指す。	B	A		
		ICTの利活用を推進するとともに、主体的に学ぶ態度を育成する。	B	B		
生徒指導	主体性の育成 社会性の育成	部活動や生徒会活動の活性化、学校行事の充実を通して、生徒の主体的な活動を推進するとともに自己肯定感を高める。	B	A	A	
		人権意識の醸成と様々な人権問題を解決する力を育成し、生徒が安心して学ぶことができる教育環境の構築に努める。	B	A		

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の力を教育活動に生かすとともに、地域を活性化する取組の推進に向け、地域とのつながりを大切にしながら継続してもらいたい。 ・部活動の活性化など様々な教育活動を進める中で、生徒が主体的取り組み、楽しい学校と思えるよう、さらなる改善を図りながら引き続き教育活動を展開してもらいたい。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の授業を中心に生徒の主体的な活動を引き出す学習活動の実践を目指す。 ・1人1台の学習用端末を活用した授業の工夫と実践に向けた研修等を積極的に取り入れる。 ・テクニカル工学系列の学びや取組を充実させ、パートナー企業や地域住民等との連携を深める。また、教育活動全般で地域の力を活用できるよう工夫する。 ・特色ある教育活動の実践と広報活動の方法の工夫により生徒募集につなげる。 ・生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れる環境の整備に努める。
---------------	---

(評価の基準 A:十分達成できている B:ほぼ達成できている C:成果はあったが目標の達成には不十分である D:ほとんど達成できていない)